

Happy Father's Day

父の日にちなんで

—CL News letter Editor— Paul Kroner pgk650@earthlink.net.

スタンフォード病院・移植オフィスが私の仕事場です。同病院で行なわれる移植に関連した情報の記入と整理のアシストの仕事をしています。また、土曜日にボランティアの仕事も患者病棟階で続けています。ボランティアの仕事として私はいろいろな援助を提供します。キッチンを整理して、患者への提供品の在庫の確認や患者が必要とした物品を看護師へ届出る、看護スタッフがうまく仕事を進めるのに役立つよう、何でもするよう用意しています。

人生のお手本

母が父、マーヴィン・クローネの話をしてくれました。父はロサンゼルスで中規模の織物製品の流通販売会社を所有していました。

ある日、母と父は会社の近くで物ごいをしている男を偶然みつけました。他の人もするように、父は男に金を施しました。そしてさらに男に、駐車と配達のために使っている裏通りをきれいにしたら、仕事賃を払うので翌日またここに来るよう言いました。男は喜んで頷きました。次の日、男は現われて、一生懸命路地をきれいにしました。仕事が終わった後、父は彼に賃金を払いました。その翌日も男は働き続けるために来て、父はその日の終わりにまた彼に支払いました。

この取り決めはしばらくの間続きました。理由はわかりませんが、結局この取り決めは終わりました。母の話によれば、父はその男の仕事振りを見守っていたそうです。そして、10年前に亡くなりました。


この話には二つの教えがあります。

一、父は施しだけではなく、目的ある活動に従事する機会を人に与えるたいせつさを知っていました。言い換えれば、父は「男に一匹の魚を与えれば1日食べていける。男にオールを与えるなら、魚以上に得るものがある」という格言を実践したのです。

二、父は、さもなくば物ごいをし続けたであろう男に、少なくとも一時的に、その男の状況の改善に向かう仕事を与えられるという、自分の職業上の立場を活用できると知っていたのです。この場合の父の行動は、それぞれの人の人生の現状がユニークなチャンス、手段、支援能力を提供することで、他の人への支援に自分が使える手段に気づくことが役立つのだと思い出させてくれます。

お父さん、あなたのお手本から人生で役立つだいじなことを教えていただきありがとうございます。また、父の実例の話をしていただいた母、エステル・クローナーにお礼申し上げます。

(Los Angeles C.A. CL instructor)

 [目次へ戻る](#)